

寒い冬が北の方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。

ある朝、ほらあなから子ぎつねが出ようと思いました
が、「あつ。」とさけんで、目をおさえながら母さん
ぎつねのところへころげて来ました。「①母ちゃん、
目に何かささった。ぬいてちょうだい。早く早く。」
母さんぎつねはびっくりして、子ぎつねの手をそつ
とどけて見ましたが、目には何もささっていませんで
した。母さんぎつねは、ほらあなの入口から外へ出
て、初めてわけが分かりました。昨夜のうちに、真つ
白な雪がどつきりふったのです。雪の上からお日さま
がきらきらとてらしていたので、雪はまぶしいほど光
をはね返していました。

雪を知らなかった子ぎつねは、その光があまりにま
ぶしかったので、目に何かささったと思ったのでし
た。

子ぎつねは遊びに行きました。真綿*のようにやわ
らかい雪の上をかけ回ると、雪の粉がしぶきのように
飛び散って、小さなじがすつと映るのです。

ことば * 真綿：まゆから作った、やわらかいわた。

すると、とつぜん、後ろで、「どたどた、ざー
つ。」と、ものすごい音がして、パン粉のような粉雪
が、ふわーっと子ぎつねにかぶさって来ました。②子
ぎつねはびっくりして、雪の中にころがるようにして
十メートルも向こうへにげました。
何だろうと思つてふり返つて見ましたが、何もいま
せんでした。それは、もみの木の枝から雪がくずれ落
ちたのでした。まだ枝と枝の間から、白い絹糸のよう
に雪がこぼれていました。
間もなく、ほらあなへ帰つて来た子ぎつねは、「お
母ちゃん、お手々が冷たい。お手々がちんちんする＊
＊。」と言つて、ぬれて赤むらさき色になった両手
を、母さんぎつねの前にさし出しました。
母さんぎつねは、その手に、はあつと息をふきか
け、あたたかい自分の手でやさしく包んでやりまし
た。「もうすぐあたたかくなるよ。雪をさわると、す
ぐあたたかくなるもんだよ。」と言いましたが、かわ
いいうやの手にしもやけ＊＊＊ができてはかわいそ
うです。
そこで、③夜になったら町まで行つて、ぼうやの手
に合う毛糸の手袋を買つてやろうと思いました。

ことば ＊＊ ちんちんする：ここでは、冷えた手がじんじんと痛む感じ。

＊ ＊ ＊ しもやけ：寒さで、手や足などが赤くはれ、かゆくなったり痛んだりすること。

もんいち
問一

―①で、子ぎつねが「目に何かささった」と思ったのは、なぜですか。一つ選びましょう。

ア 雪のつぶが目の中に入ったから。

イ 雪がはね返した光が、とてもまぶしかったから。

ウ もみの木の枝が目に当たったから。

エ 暗いほらあなの中で、目をぶつけたから。

こたえ

もんに
問二

―②の子ぎつねをおどろかせた音と粉雪は、何が起きたためのものでしたか。本文にそつて短く書きましょう。

--	--	--	--

もんさん
問三

―③の母さんぎつねの行動には、どのような気持ち表れていますか。一つ選びましょう。

ア ぼうやを、一人で町へ行けるようにしたい。

イ ぼうやに、雪の上で遊ぶことをやめさせたい。

ウ ぼうやに、町の店を見せて楽しませたい。

エ ぼうやの手を、冷たさやしもやけから守りたい。

こたえ

暗い暗い夜が、ふろしきのような影を広げて、野原や森を包みにやって来ました。けれど雪はあまりに白いので、包んでも包んでも白く浮かび上がっていました。

きつねの親子は、ほらあなから出ました。子ぎつねは母さんのおなかの下にもぐりこみ、まん丸な目をぱちぱちさせながら、あちこちを見て歩いて行きました。

やがて、行く手にぽつんと明かりが一つ見え始めました。「母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ。」「あれはお星さまじゃないのよ。」と言って、そのとき、母さんぎつねの足はすくんで*しまいました。「あれは町の明かりなんだよ。」

母さんぎつねは、以前、友達と町へ出かけて、ひどい目にあったことを思い出しました。やめなさいと言ったのに、友達のきつねが、ある家のあひるをぬすもうとしたのです。農家の人に見つかり、さんざん追いかけられて、やつとのことではげたのでした。

「母ちゃん、何してるの。早く行こうよ。」子ぎつねが言いましたが、①母さんぎつねは、どうしても足が進まないのです。そこで、しかたなく、ぼうやだけを一人で町へ行かせることになりました。

ことば * 足がすくむ：こわさなどで、足が動かなくなる。

「ぼうや、お手々を片方お出し。」②母さんぎつねは、その手をしばらくにぎっている間に、かわいい人間の子どもの手に変えてしまいました。子ぎつねは、その手を広げたり、にぎったり、つねったり、においをかいだりしました。「何だか変だな、母ちゃん。これ、なあに。」

「それは人間の手よ。町へ行ったら、表にぼうしの看板がかかっている家をさがすんだよ。見つかったら、戸をたたいて『こんばんは』と言うんだよ。」母さんぎつねは、さらに言い聞かせました。「中から人間が少し戸を開けるから、すき間から、この人間の手をさし入れてね。『この手にちようどいい手袋をください』と言うんだよ。」③決して、きつねの方の手を出してはいけないよ。」

「どうして。」「人間はね、相手がきつねだと分かると、手袋を売ってくれないんだよ。それどころか、つかまえて、おり**の中へ入れてしまうんだよ。人間って、本当にこわいものなんだよ。」「ふうん。」

「決して、きつねの手を出してはいけないよ。人間の手の方をさし出すんだよ。」そう言っ母さんぎつねは、持って来た二つの白銅貨**を、人間の手の方ににぎらせてやりました。

ことば ** おり：動物などを中に入れておく、さくで囲まれた場所。

*** 白銅貨：銅とニッケルを混ぜた金属で作った硬貨。

なまえ
名前：

と
解く

もんいち
問一

―①で、母さんぎつねの足が進まなかったのは、なぜですか。一つ選びましょう。
ア 町へ行く道が分からなくなったから。
イ 子ぎつねが歩くのをいやがったから。
ウ 以前、人間に追いかけられたことを思い出したから。
エ 手袋をかうお金を忘れたことに気づいたから。

こたえ

もんに
問二

―②で、母さんぎつねが、ぼうやの片方の手を人間の手に変えたのは、何のためですか。一つ選びましょう。
ア きつねだと気づかれずに、手袋をうえるようにするため。
イ 人間の手の方が、きつねの手よりもあたたかいから。
ウ きつねの手では、お金をにぎれないから。
エ ぼうやが、人間の子どもになりたいとたのんだから。

こたえ

もんさん
問三

―③のあとで、母さんぎつねは、きつねだと分かると、手袋を売ってもらえないだけでなく、どんなことをされると話していますか。

--	--	--

子ぎつねは、町の明かりを目当てに、雪明かりの
野原をよちよち歩いて行きました。

初めは一つだけだった明かりが、二つになり、三つ
になり、やがて十にもふえました。子ぎつねは、明か
りには星と同じように、赤いものや黄色いもの、青い
ものがあるんだなと思いました。

やがて町に入りましたが、通りの家々は、もうみん
な戸を閉めていました。高いまどから、あたたかさう
な光が道の雪の上に落ちているばかりでした。けれ
ど、表の看板の上には、たいてい小さな電灯がともつ
ていました。子ぎつねは、それを見ながら、ぼうし屋
をさがしました。

自転車やめがねなど、いろいろな看板がありました
が、初めて町へ来た子ぎつねには、それらが何なのか
分かりませんでした。

とうとう、ぼうし屋が見つかりました。母さんがよ
く教えてくれた、黒い大きなシルクハット*の看板
が、青い電灯にてらされていました。

ことば * シルクハット：上の部分が高く、つつのような形をしたぼうし。

子ぎつねは、教えられたとおり、トントんと戸をたたきました。「こんばんは。」中で何かことと音がして、やがて戸がほんの少し開きました。光の帯が、道の白い雪の上に長くのびました。

その光がまぶしかつたので、子ぎつねはめんくらつて**、①母さんが出してはいけないと言った、きつ

ねの方の手を、すき間からさしこんでしまいました。

「このお手々にちようどいい手袋をください。」

ぼうし屋さんは、おやおやと思いました。きつねの手です。きつねの手が手袋をくれと言うのです。これはきつと、木の葉で買いにきたのだなと思いました。

そこで、「②先にお金をください。」と言いました。

子ぎつねは、にぎって来た白銅貨を二つ、すなおにわたしました。ぼうし屋さんは、それを人さし指の先にのせ、打ち合わせてみました。チンチンとよい音がしたので、これは木の葉ではなく、本当のお金だと思いました。そして、たなから子ども用の毛糸の手袋を取り出して、子ぎつねの手に持たせてやりました。

子ぎつねは、お礼を言つて、もと来た道を帰り始めました。「③お母さんは、人間はおそろしいものだと言ったけれど、ちつともおそろしくないや。だって、ぼくの手を見ても、何もしなかったもの。」と思ひました。けれど、子ぎつねは、人間とはどんなものか見たいと思いました。

ことば ** めんくらう：急なことにおどろき、どうしてよいか分からなくなる。

もんいち
問一

―①で、子ぎつねがきつねの手を出してしまったのは、なぜですか。一つ選びましょう。

ア 店の人に、きつねの手を見せるように言われたから。

イ 人間の手を、元の手にもどしたかったから。

ウ 母さんの言いつけが正しいか、ためしたかったから。

エ 戸からもれた光がまぶしくて、あわてたから。

こたえ

もんに
問二

―②で、ぼうし屋さんが先に
お金を求めたのは、何を確か
めたかったからですか。

もんさん
問三

―③のように子ぎつねが思った理由として、本文に合うものを一つ選びましょう。

ア ぼうし屋さんが、子ぎつねを家の中に入れてくれたから。

イ きつねの手を見られても、こわいことをされず、手袋を売ってもらえたから。

ウ ぼうし屋さんには、きつねの手と人間の手の区別がつかなかったから。

エ ぼうし屋さんが、お金を受け取らずに手袋をくれたから。

こたえ

手袋を買った子ぎつねは、帰り道の、あるまどの下を通りかかりました。すると、人間の声がしていました。何というやさしい、何という美しい、何というおっとりした声でしょう。

「ねむれ ねむれ

母の胸に、

ねむれ ねむれ

母の手に――」

①子ぎつねは、その歌声は、きつと人間のお母さんの声にちがいないと思いました。子ぎつねがねむるときにも、母さんぎつねは、あんなやさしい声で歌いながら、体をゆすってくれるからです。

すると、こんどは子どもの声がしました。「母ちゃん、こんな寒い夜は、森の子ぎつねは、寒い寒いっていないでいるでしょうね。」

お母さんの声が答えました。「森の子ぎつねも、お母さんぎつねのお歌を聞いて、ほらあなの中でねむろうとしているでしょうね。さあ、ぼうやも早くねんねしなさい。森の子ぎつねとぼうやと、どちらが早くねんねするか、きつとぼうやの方が早くねんねしますよ。」

それを聞くと、②子ぎつねは急にお母さんが恋しくなつて、母さんぎつねの待っている方へ飛んで行きました。

母さんぎつねは心配しながら、ぼうやの帰りを、今か今かとふるえながら待っていました。ぼうやが帰つて来ると、あたたかい胸にだきしめて、泣きたいほどよろこびました。

二ひきのきつねは、森の方へ帰って行きました。月が出たので、毛なみが銀色に光り、その足あとには、コバルト*の影がたまりました。

「母ちゃん、人間って、ちつともこわくないや。」

「どうして。」「ぼく、まちがえて、本当のお手々を出しちゃったの。でも、ぼうし屋さん、つかまえなかったもの。ちゃんと、こんないい、あたたかい手袋をくれたもの。」そう言つて、子ぎつねは手袋のはまつた両手を、パンパンと打ち合わせて見せました。

母さんぎつねは、「まあ。」とおどろきましたが、

「③本当に人間はいいものかしら。本当に人間はいいものかしら。」と、つぶやきました。

ことば * コバルト：ここでは、あざやかな青色。

もんいち
問一

―①で、子ぎつねが人間のお母さんの声だと思っただのは、なぜですか。一つ選びましょう。

ア まどから、人間のお母さんの顔が見えたから。

イ 母さんぎつねと、まったく同じ歌を歌っていたから。

ウ 自分がねむるときの母さんの声も、そのようにやさしいから。

エ 母さんぎつねから、その家にお母さんがいると聞いていたから。

こたえ

もんに
問二

―②で、人間の親子の声を聞いたあと、子ぎつねはどのような気持ちになりましたか。「恋しく」「飛んで」を別の言葉にして書きましょう。

--	--	--

もんさん
問三

―③をつぶやいた母さんぎつねの様子として、最も合うものを一つ選びましょう。

ア 子ぎつねの話を聞いて、人間は本当にいいものなのかと、まだ答えを決められずに考えている。

イ 子ぎつねの話を聞いて、人間はいいものだとはつきりわかり、安心してゐる。

ウ 子ぎつねが手を間違えたことに腹を立て、同じ失敗をしないようにしている。

エ 子ぎつねの話は本当ではないと思い、手袋を買ったことを疑っている。

こたえ

問3

正解：エ

本文のどこを見るか

冷えた手を包む行動と、「しもやけができてはかわいそう」。

考え方

手袋を買おうとした理由から、子どもを思う気持ちを読みます。

誤答の理由

ア・ウ：そのような目的は書かれていません。
イ：雪遊びをやめさせようともしていません。

問2

解答例：もみの木の枝から雪がくずれ落ちたこと。

本文のどこを見るか

傍線②のあとにある「それは、もみの木の枝から……」。

考え方

大きな音と、かぶさって来た粉雪の原因を確かめます。

採点ポイント

「木の枝から雪が落ちた」でも正解。「雪がふった」だけでは、枝に積もった雪が落ちたことが表せていません。

問1

正解：イ

本文のどこを見るか

「雪はまぶしいほど光をはね返していました」と、その次の説明。

考え方

子ぎつねが「ささった」と感じたことと、実際の原因を区別します。

誤答の理由

ア・ウ：目に何かが入ったり当たったりしたのではありません。
エ：目をぶつけたとは書かれていません。

問3

解答例：人間につかまえられて、おりの中に入られること。

本文のどこを見るか

子ぎつねの「どうして」に対する母さんの説明。

考え方

買い物に失敗することだけでなく、子ぎつねの身に危険が及ぶことを心配していると読みます。

採点ポイント

「つかまえられること」または「おりに入れられること」があれば正解。「こわいことをされる」だけなら、具体的な内容を書き足すよう促します。

問2

正解：ア

本文のどこを見るか

人間の手を戸のすき間から出すように教える言葉と、人間についての説明。

考え方

母さんが心配していることと、そのために取った方法をつなげます。

誤答の理由

イ：手のあたたかさの違いは書かれていません。
ウ：きつねの手がお金をにぎれないとは書かれていません。
エ：ぼうやがたのんだのでもありません。

問1

正解：ウ

本文のどこを見るか

友達のきつねと町へ出かけ、人間に追いかけられた経験。

考え方

過去の経験と、今の行動を結びつけます。

誤答の理由

ア：道に迷ったのではありません。
イ：「早く行こうよ」という子ぎつねの言葉と反対です。
エ：母さんはお金を持っています。

問3

正解：イ

本文のどこを見るか

きつねの手に気づいた店の人が、お金を確認し、手袋をわたす場面。

考え方

子ぎつね自身の経験と、人間に対する考えを結びつけます。すべての人間について結論が出たわけではありません。

誤答の理由

ア：家の中へ入ってはいません。

ウ：店の人は、きつねの手に気づいています。

エ：お金をわたして手袋を買っています。

問2

解答例：木の葉ではなく、本当のお金を持って来たのかを確かめたかったから。

本文のどこを見るか

「木の葉で買いに来たのだな」と思ったことと、お金を打ち合わせる行動。

考え方

発言の前後にある考えと行動から、確かめたかったことを読み取ります。

採点ポイント

「本当のお金かどうか」が書けていれば正解。「お金を持っているか」だけなら、本物かどうかを疑っていた点を確認します。

問1

正解：エ

本文のどこを見るか

傍線①の直前にある、まぶしさと「めんくらって」という表現。

考え方

わざと手を出したのではなく、あわてて間違えたことを読みます。

誤答の理由

ア：そのような指示はありません。

イ・ウ：そのような目的で手を出したのでもありません。

問3

正解：ア

本文のどこを見るか

子ぎつねの報告に対する「まあ」という反応と、繰り返された「いいものかしら」。

考え方

「いいものだ」と言い切らず、問いかける形で繰り返すことに注目します。人間を完全に信じたとは断定しません。

誤答の理由

イ：はっきり結論を出したとする点が違います。

ウ：しかる言葉はありません。

エ：買い物そのものを疑っているとは書かれていません。

問2

解答例：自分のお母さんに会いたくなり、母さんぎつねが待つ方へ急いで帰った。

本文のどこを見るか

傍線②。

考え方

「恋しい」という気持ちと、「飛んで行く」という行動を、場面に合った言葉で説明します。

採点ポイント

① お母さんに会いたい、そばにいたいという気持ち。

② 母さんのところへ急いで帰った行動。

二点で正解。片方だけなら、もう一方を補います。

「飛んで」は空を飛ぶことではなく、急いで向かう様子です。

問1

正解：ウ

本文のどこを見るか

傍線①の次にある、母さんぎつねの声についての説明。

考え方

聞こえた歌声を、自分の母さんとの経験に重ねて読むことを読みます。

誤答の理由

ア：顔を見たとは書かれていません。

イ：歌が同じだという説明はありません。

エ：母さんから聞いていたのでもありません。

使い方・出典・教材制作

手袋を買いに／小学3・4年生向け

印刷と使い方

全17ページ。児童用：1～12ページ、解答・解説：13～16ページ、使い方・出典：17ページ。各回は本文2ページと問題1ページです。A4横向き・片面・実際のサイズ（100%）で印刷します。本文2枚を読む順に並べ、問題をその下に置きます。児童用のみなら1～12ページを指定してください。

問題と採点

各回3問。4択2問と、短答・記述1問です。その回の本文2枚を見ながら答えて構いません。記述欄は縦書きです。解答例と同じ言い方でなくても、採点ポイントの内容が表せていれば正解とします。

読み方のポイント

人物の行動や気持ちを、本文の言葉を根拠に考えます。第2回は母さんの経験と心配、第3回は子ぎつねの経験、第4回は気持ちと行動や、母さんの最後の言葉に注目します。

最後の場面について

子ぎつねが「おそろしくない」と感じたことと、すべての人間について結論が出たことは別です。母さんの「いいものかしら」も、人間を完全に信じたと断定せず、問いかける言い方に注目します。

本文の扱い

提供された青空文庫本文をもとに、小学生向けに表記・語句・文の構成を整え、一部の表現を省略・言い換えています。ふりがな・注釈・傍線・段落と全4回の区切りは教材用です。原文そのままの転載ではありません。

作者・作品

作品：『手袋を買いに』

作者：新美南吉（にいみ なんきち）

出典情報

底本：『新美南吉童話集』

岩波文庫、岩波書店

1996（平成8）年7月16日第1刷発行

1997（平成9）年7月15日第2刷発行

入力：大野晋

校正：伊藤祥

1999年3月2日公開

2011年4月27日修正

出典の確認先

青空文庫

<https://www.aozora.gr.jp/>

本文と書誌・入力校正情報は、ご提供の青空文庫作成ファイルに基づきます。青空文庫の入力・校正・制作は、ボランティアの皆さんによるものです。

教材制作

家スタ！／学習舎シオン